

令和7年度学校経営方針

学校教育目標 「自ら学び、心豊かで、たくましい生徒の育成」

自分の良さを知り、思いやりをもって仲間と生活し、挑戦することをおそれない五中生！

学校の特徴・実態

本校は昭和53年に第一中学校と第二中学校より分離独立して開校した学校である。開校時の生徒数は1年生300名、2年生257名の合計557名、13学級でのスタートであった。今年度は開校から48年目を迎えている。

学区の家庭環境を見てみると、要保護・準要保護家庭は昨年度末において42名(5.7%)と地域・家庭的に恵まれている。家庭の教育への関心は高いが、家庭での学習習慣形成については大きな差が来ている。全体的な傾向として保護者は学校に理解があり、協力的である。地域活動、地域行事が盛んで吹奏楽部をはじめ、多くの部活動が積極的に行事に参加し、地域との関係もよい。

全国学力状況調査においては、学力面では全国平均を大きく上回っているものの、自己肯定感・自己有用感が低いことが課題として挙げられる。このことから、人間関係作りは具体的課題の一つとなる。反社会的な行動をする生徒はいないが、現在ほどの学校でも課題として挙げられている社会との関わりが少ない生徒が増加傾向にあり、その多くが友人関係のトラブルから関係の修復が出来ずに教室へ入れない、学校に行きたくないという生徒が増えている。中には欠席の理由がわからない生徒もいるが、そのほとんどが社会との関わり方がわからないと推測される。このような状況から、今年度は「自己肯定感・自己有用感を高める」指導を中心に取組を進めたい。

目指す生徒像	目指す学校像	目指す教師像
○自ら知識を求め、学習に励む生徒（知） ○自分を大事にし、仲間を大事にする生徒（徳） ○心身が健康でたくましい生徒（体） ○困難に負けず、勇気をもって乗り越えられる生徒	○美しく整い、学習の場としてふさわしい学校 ○けじめがあり、笑顔とあいさつがあふれる活力ある学校 ○生徒と教師が互いに信頼しあえる学校 ○生徒、教職員、保護者、地域が誇りを持てる学校	○研究と修養に努め自らを磨き、学ぶ楽しさを伝えられる教師 ○生徒の成長と発達を理解し、悩みや思いを受け止め支援できる教師 ○校務の遂行にあたり、新しいことに挑戦できる教師 ○生徒・保護者や地域の信頼に応える教師

学校経営の重点目標

- (1) 学年経営と学級経営の充実
- (2) 確かな学力を育む魅力ある授業の展開
- (3) 自分の良さや可能性を実感させ、自己有用感を持たせる指導の展開
- (4) 将来を見据えたキャリア教育の推進と充実
- (5) 社会規範を守る態度を育て、地域から信頼される生徒の育成
- (6) 保護者や地域との連携を積極的に進め、信頼される学校づくり
- (7) 校務処理の合理的・計画的運営

重点目標を達成するための具体的方策

(1) 学年経営と学級経営の充実

- ① 優しさと厳しさを兼備し、深い愛情をもって生徒指導にあたる。
- ② 一人一人の生徒理解と、信頼関係の構築に努める。
- ③ 集団活動を通して、協力や挑戦する力、仲間関係、自己理解の育成に努める。
- ④ 朝学活、帰学活を充実させ、生徒の士気を高める。
- ⑤ 生徒の心を育てるためにふさわしい言語環境と、教室環境の整備に努める。

(2) 確かな学力を育む魅力ある授業の展開

- ① 授業のねらいを重点化（学習課題を掲げ）し、教師が教えること、生徒に考えさせること、生徒が調べたり話し合ったりして解決することを明確にした授業（3K：聞きたくなる、考えたくなる、関わりたくなる）を実施する。
- ② 指導と評価の一体化を考慮した指導法の工夫・改善と授業力の向上を図る。
- ③ ICT 機器（タブレット含む）を積極的活用し学習内容を可視化することで、学習意欲、表現力の向上を目指す授業作りを行う。
- ④ 読書を大切にし、読書の楽しさや言葉の持つ力に気づかせ、本に親しむ生徒を育てる。
- ⑤ 教員研修の充実 千葉県研修体系 Plant の活用、積極的な任意研修への参加、校内研修の充実を図る。

(3) 自分の良さや可能性を実感させ、自己有用感を持たせる指導の展開

- ① 生徒の成長や努力を見逃さずに認め、教員間の情報共有を行う。
- ② 生徒一人一人の特性を理解し、適切な支援・指導に努める。
- ③ 一人一人を大切にしたい人権教育の推進、道徳教育の充実を図る。
- ④ 生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動等を通して、達成感を味合わせる体験をさせ、責任感や連帯感の涵養、自信を積み重ねる指導を行う。
- ⑤ 給食指導や保健指導等を通して、健康な心身を保つための食育教育に努める。

(4) 将来を見据えたキャリア教育の推進と充実

- ① キャリア教育を推進し、自己実現していくために必要な意欲や態度を育てる。
- ② キャリアパスポートの有効活用を推進する。
- ③ 職場体験学習の方法・内容の充実を図る。
- ④ 認知症サポーター養成講座を実施する。
- ⑤ 3年間を通じた進路学習を充実させる。

(5) 社会規範を守る態度を育て、地域から信頼される生徒の育成

- ① 共通理解と共通指導に基づく指導体制を推進する。
- ② 挨拶・マナーの励行、互いの良さを認めて協働する力を育てる。
- ③ きれいな学習環境を整え、清掃活動を充実し奉仕の心を醸成する。
- ④ いじめの早期発見、早期対応、虐待を見逃さない。
- ⑤ 不登校を未然に防ぐ教育相談体制を充実させる。

(6) 保護者や地域との連携を積極的に進め、信頼される学校づくり

- ① 学校だよりや学年だより等で、学校や生徒の取組の様子や課題を定期的に伝える。
- ② 学校評価を実施し、学校運営の状況について、家庭や地域に公表する。
- ③ 授業参観や運動会・合唱コンクール等の行事を通して、学校公開を計画的に実施する。
- ④ PTA 活動、青連協パトロール等、地域行事への参加により信頼関係を築く。
- ⑤ 学校運営協議会やミニ集会を開催し、地域の方からの意見聴取に努め、学校運営に生かす。

(7) 校務処理の合理的・計画的運営

- ① 学校運営上の一人一人の役割を自覚し、学校経営に参画意識を高める。
- ② 組織の一員として、報告・連絡・相談を密にして、校務を遂行する。
- ③ 業務上の問題を一人で抱え込むことがないように日々コミュニケーションを図り、相互理解し組織力の向上を図る。
- ④ 働き方改革 ライフワークバランスの構築し、生徒と向き合う時間の確保をすると共に教職人生を豊かにし人間性を高める。
- ⑤ 全体の奉仕者としての自覚を持ち、防災対策、危機管理の徹底を図る。